

神奈川労連大会での発言要旨

020907 神奈川労連大会 国公豊田

私は、議案書に全く触れられていない、全税関の闘いの勝利解決について報告しようと思いましたが、のちほど別の代議員が発言することになったのでそちらに譲ることになります。

そこで私は、神奈川労連が豊かに大きく発展することを願う立場から、日立争議の闘いを報告し、今後のローカルセンターのあるべき姿について意見を述べたいと思います。

神奈川労連が結成間もない頃、神奈川労連は大企業労働者との日常的な交流を各産別に振り分けました。県国公は、日立を受け持ち、日立の労働者と恒常的・日常的に長い目で交流するように言われました。

国家公務員労働者は、神奈川労連の方針を率先して実践し、県内各工場前での宣伝行動や、全労連関東ブロックからの要請にも応えて茨城県日立市での集会にも多数が参加をし、大企業を包囲するという全労連方針を実践してきました。

大企業から差別をなくす闘いに立ち上がった労働者を支援するため、支援共闘会議の事務局長もその延長として務めてきました。神奈川労連は残念ながら、日立の支援共闘会議から離脱をしましたが、私たちは自覚的に闘う皆さん方の支援を得る中で闘い続け、このたび全面解決をすることが出来ました。私は支援共闘の事務局長として、このような困難な元で最後まで支援していただいた地域・単産の皆さん方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

2年前に先行解決した神奈川以外の日立争議は、原告全員には解決内容を明らかにせず、何人中何人を昇格させるという比率のみを決定して、誰を昇格させるかは会社に任せるという形を取りました。神奈川では、解決是正内容をすべての原告に明らかにして闘いを進めてきました。その結果、先行解決した1都2県を上回り次のおり解決することが出来ました。①自主交渉の段階で原告全員の格付けアップを勝ち取り②執務職原告全員を総合職に昇格させ③男女差別原告の技能職全員を裁判所への訴状要求どおり指導技能員とさせました。④また提訴外者の是正についても、先行解決での5割を大きく上回り、8割の人が是正を勝ち取りました。

日立の闘いの大きな特徴は次の4つです。①1都2県の争議と神奈川は別に解決したこと②神奈川労連が支援共闘会議から離脱したこと、これに伴い、自治労連や横浜労連が離脱をし、新婦人県本部も共産党の方針に従わないから脱退すると言って離脱をしました。③日立神奈川争議団10名の内1名が団からはずれ、別の解決になったこと④政党との関係がぎくしゃくしたこと。

このように闘いの経過で様々な問題が起こりましたが、私たちは神奈川労連の対応の是非を含めて今、総括をしているところです。

神奈川労連の正しい発展のためにも、県国公の中でもきちんと総括していきたいと思っ

ています。

議案書には、「日立の支援共闘から、打開案の提案や話し合いの要請もなかったので参加しなかった」と書かれていますが、支援の条件として謝罪と代表委員の派遣をつきつけられ、話し合いについても私一人だけと話しあうなら良いが複数の人とは会わないと言われてきました。自ら脱退しておきながら、打開策の提案や話し合いの要請がなく参加しなかった、という書き方には問題があるのではないのでしょうか。

私は神奈川労連のある幹部からこんなことを直接聞いたことがあります。「神奈川労連にゼニを払っていないところまで面倒は見られない」と言う驚くべき発言です。神奈川労連の組合員であるかを問わず、全労働者を視野に入れて闘うのが、神奈川労連のローカルセンターとしての方針ではないのでしょうか。

神奈川労連にゼニを払っていない東芝争議についても、私は支援共闘会議相談会に出ていますが、神奈川労連大会議案（7/31 神奈川労連評議員会決定）を見たときは愕然としました。東芝の原告には、支援共闘を作るための努力や熱意が感じられないと、はっきりと書いてあったからです。東芝支援共闘会議の結成を妨害しているのは何なのかを知っている私としては、「原告の努力や熱意が感じられない」の部分には驚きましたが、本日見た最終議案では削られているのでホッとしました。

日立の争議は、いろいろとあったにせよ解決したのだから、もうゴチャゴチャ言わずに、過去のことは水に流したらどうかという忠告もありました。しかし、私たちは、引き続き東芝の闘いのためにも、そして日本の労働運動のあり方を広く議論し、発展させるためにも、日立問題を曖昧にすることが出来ないと思います。

神奈川労連を始めとして、民主的な組織であるべきところが、原則を踏み外す誤りを東芝争議で繰り返すことのないようお願いして発言を終わります。